

# 宮城県における大学数・学生数等の状況について

## 1 はじめに

1月の大学入学共通テスト、2月の私立大学の入試、そして国公立大学の2次試験を経て、本格的な春の訪れとともに新たな学生たちが大学生活をスタートさせる季節となります。

大学は、専門知識を学ぶ場であると同時に、社会人としての助走期間でもあります。宮城県は「学都・仙台」として知られ、近年では東北学院大学の「五橋新

キャンパス」の開設や、東北大学の「国際卓越研究大学」への認定、宮城県では21年ぶりとなる仙台青葉学院大学の 신설など、教育環境の充実が進んでいます。一方で、卒業後の若者の県外流出も課題となっています。このような背景を踏まえ、本稿では、宮城県における大学数や学生数等の状況を概観します。

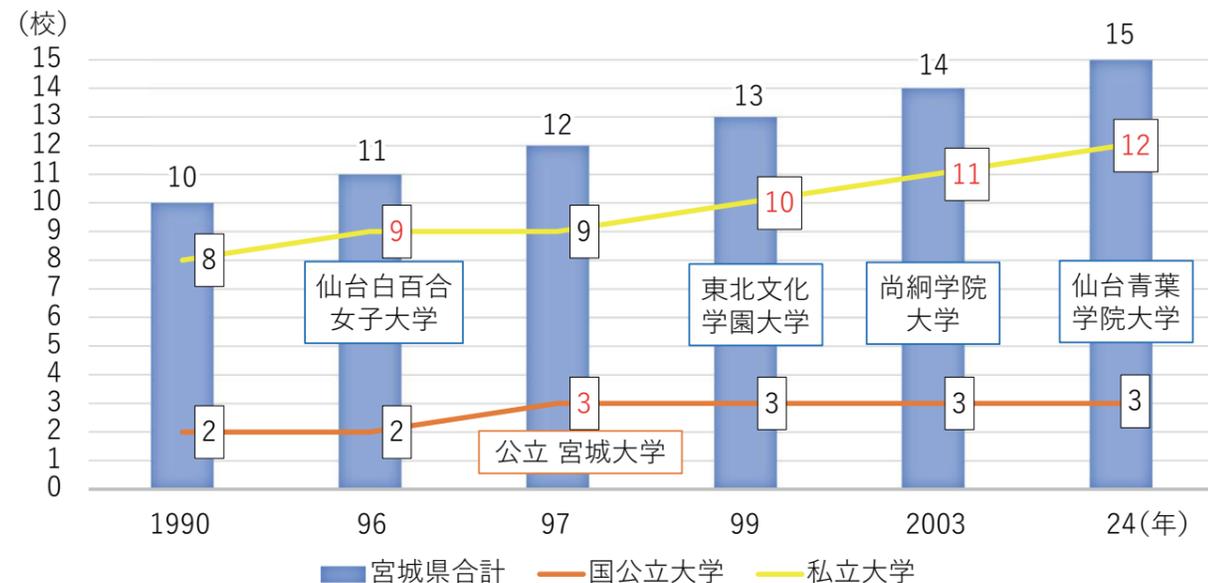
## 2 宮城県の大学数の推移

### (1) 宮城県の大学数と設立の変遷

～1990年以降に5校が設立され2024年現在は15校に～

図表1は、1990年以降2024年までの宮城県の大学数の推移を示しています。宮城県の大学数は1990年には10校でしたが、2024年までに5校が開設され15校となりました。大学数と設立の変遷について、①国公立大学 ②私立大学の順に見ていきます。

図表1 宮城県の大学数の推移



### ① 国公立大学 ～1997年に宮城県初の公立大学として宮城大学が設立～

1990年当時、宮城県の国公立大学は、東北大学(1907年)と宮城教育大学(1965年)の2校のみでした(いずれも国立大学)。その後、1997年に「グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材の育成」などを目的に、宮城県初の公立大学として宮城大学が設立されました。2024年現在、宮城県の国公立大学は3校を数えます。

### ②私立大学 ～2024年4月に21年ぶりとなる仙台青葉学院大学の設立～

1990年当時、宮城県には東北学院大学(1886年)を含め8校の私立大学がありました。1990年以降、仙台白百合女子大学(1996年)、東北文化学園大学(1999年)、尚絅学院大学(2003年)、仙台青葉学院大学(2024年)の4校が設立されました。2024年現在、宮城県の私立大学は12校を数えます。

### (2) 宮城県と仙台市の大学数と全国との比較

～宮城県の大学数は全国で14位 仙台市への大学集積が顕著に～

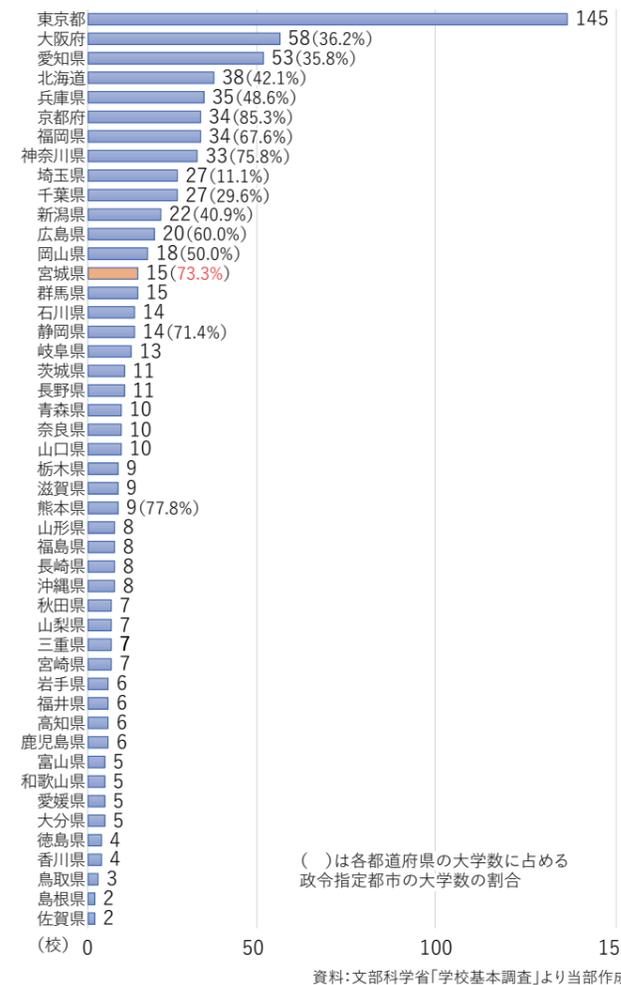
図表2と図表3は、それぞれ2024年における宮城県の大学数と全国との比較、仙台市の大学数と全国の政令指定都市との比較を示しています。これを見ると、宮城県の大学数は47都道府県中14番目に位置し全国的に見ても上位であることがわかります。

宮城県より上位には、東京都や大阪府などの大都市圏、また、宮城県よりも人口の多い都道府県が並びます。しかし、宮城県よりも人口の少ない新潟県と岡山県は、宮城県と同様に政令指定都市を擁する県ですが、県内の大学数に占める政令指定都市の大学数の割合をみると、宮城県では7割強であるのに対し、

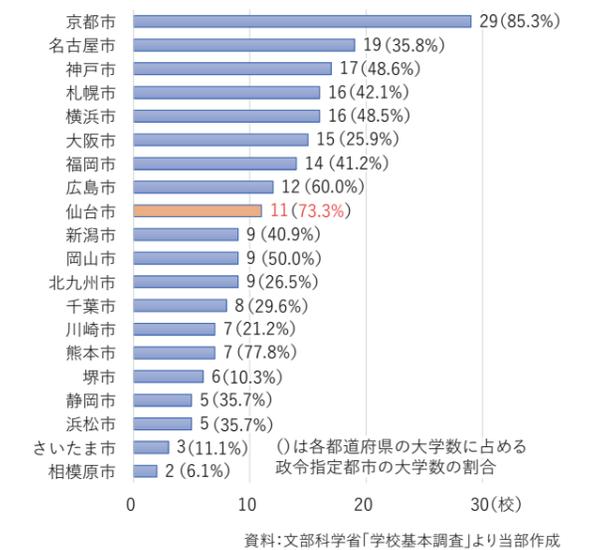
新潟県では4割強、岡山県では5割にとどまります。このことから、宮城県では「学都・仙台」として、大学の集積が仙台市に特に集中していることがわかります。

図表3から、仙台市の大学数は、全国20の政令指定都市の中で9番目と中位に位置します。しかし、各政令指定都市が所在する都道府県の大学数に占める政令指定都市の割合では、京都市、熊本市に次いで3番目に高く、ここでも、「学都・仙台」として大学の集積が仙台市に集中する傾向が確認できます。

図表2 宮城県の大学数と全国との比較(2024年)



図表3 仙台市の大学数(2024年)



### 3 宮城県の学生数の推移

#### (1) 宮城県の学生数

～1990年以降増加も東日本大震災後にピークアウト～

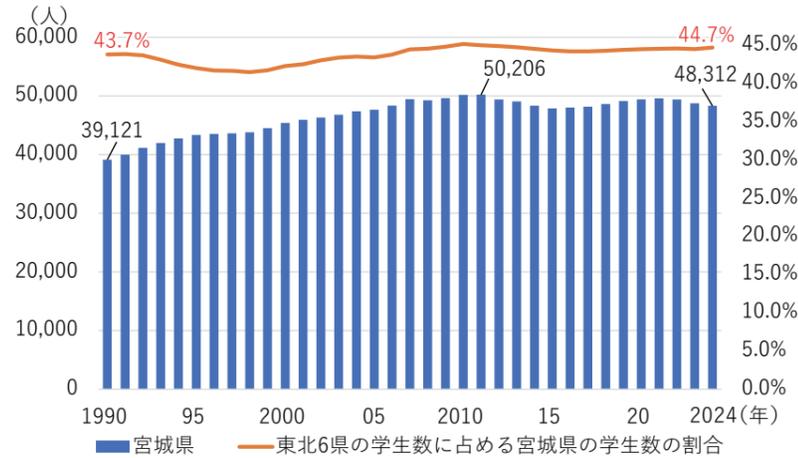
図表4は、1990年以降の宮城県における学生数の推移を示しています。

1990年当時の宮城県の学生数は、約3万9千人でした。その後、1990年以降は穏やかに増加し、東日本大震災(以下「震災」という。)が発生した2011年に約5万

人でピークに達しました。しかし、その後は減少に転じ、増減を繰り返しながら、2024年では約4万8千人となっています。

また、東北6県における学生数に占める宮城県の割合は、一貫して4割強の水準で推移しています。

図表4 宮城県の学生数の推移



資料: 文部科学省「学校基本調査」

#### (2) 宮城県の男女別学生数

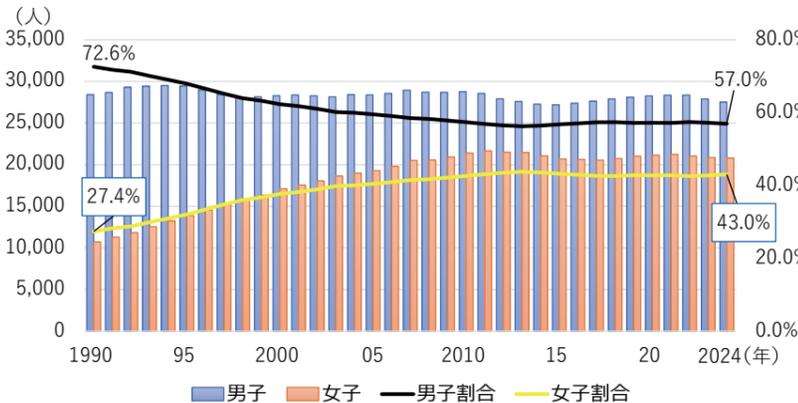
～男子6割弱、女子4割強へ～

図表5は、宮城県の男女別の学生数の推移を示しています。1990年当時、男子学生数は約2万8千人、女子学生数は約1万1千人で、男子学生の割合が7割強、女子学生の割合は3割弱でした。

1990年以降、男子学生数は約2万7千人から約2万9

千人の範囲で推移している一方、女子学生数は1990年の約1万1千人から増加を続け、2024年には約2万1千人と、おおむね2倍の水準に達しました。その結果、男子学生の割合は6割弱、女子学生の割合が4割強となっています。

図表5 宮城県の男女別学生数の推移



資料: 文部科学省「学校基本調査」

### 4 宮城県の大学等進学率の推移

#### (1) 宮城県の大学等進学率

～1990年の2割強から2024年には6割弱に～

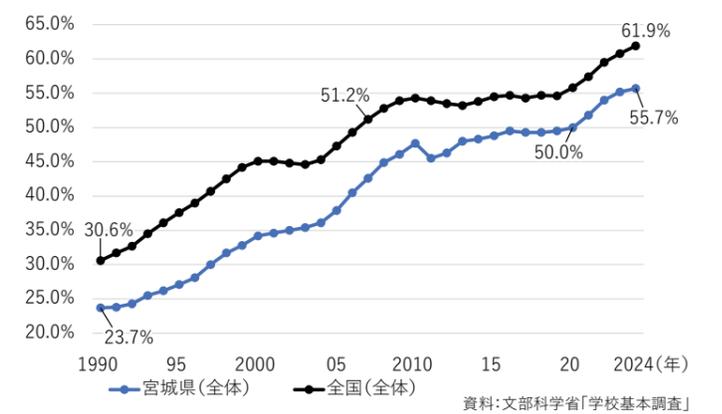
図表6は、1990年以降の宮城県における大学等進学率(以下「進学率」という。)の推移を示しています。

1990年当時、宮城県の進学率は23.7%で、全国との差は6.9ポイントありました。1990年以降はおおむね増加傾向でしたが、2011年の震災の影響で一時的に減少しました。しかし、その後は再び増加に転じ、2020年に進学率50.0%に到達しました。2024年には55.7%となり、全国との差は0.7ポイント縮小して6.2ポイントになっています。

※大学等進学率

各年3月の高等学校本科卒業者のうち、大学または短期大学(学部・通信教育部・別科)、高等学校等の専攻科に進学した者(就職進学した者を含む。)の割合を指します。

図表6 宮城県の大学等進学率の推移(全体)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

#### (2) 宮城県の男女別進学率の推移

～男女とも5割強も全国との乖離あり～

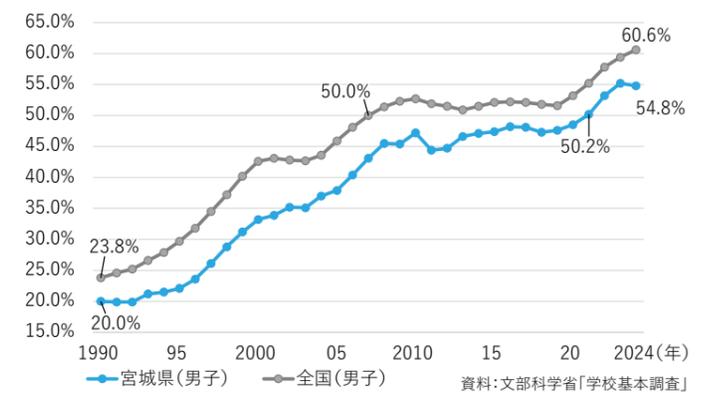
図表7と図表8は、宮城県の男女別進学率の推移を示しています。男子、女子ともに、進学率の全体的な傾向は全体の動きと概ね一致していますが、2010年以降、男子の進学率の伸びは鈍化する一方、女子は穏やかな上昇傾向が続きました。

男子は2021年、女子は2015年に50.0%を突破し、2024年の進学率は男子54.8%、女子56.7%となっています。

進学率は多くの期間で女子が男子を上回っていますが、1990年以降は女子の短期大学への進学増加、2010年以降は4年生大学への進学志向が高まったことが一因と考えられます。

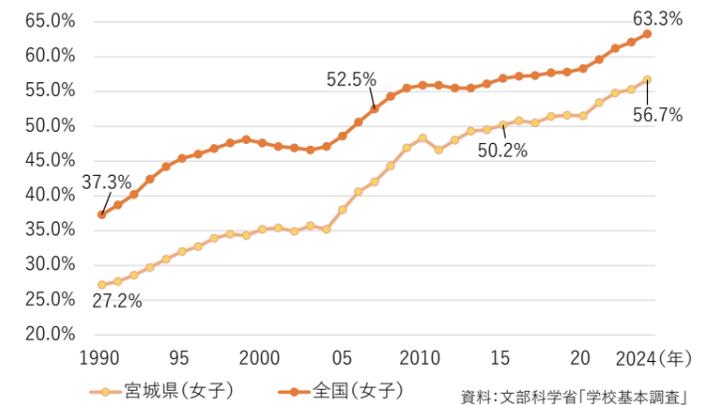
全国との進学率の乖離を見ると、1990年当時、男子の全国との差は3.8ポイントでしたが、2024年には5.8ポイントへと拡大しました。一方、女子の全国との差は1990年の10.1ポイントから2024年には6.6ポイントへ縮小しています。

図表7 宮城県の大学等進学率の推移(男子)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

図表8 宮城県の大学等進学率の推移(女子)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

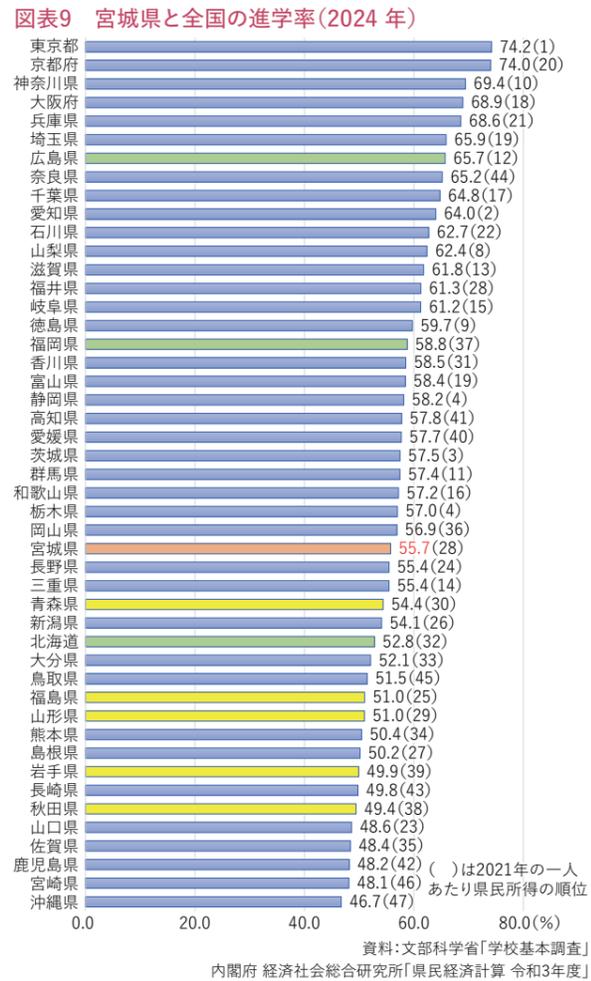
### (3) 宮城県の進学率と全国の進学率

#### ～宮城県の進学率は47都道府県中28位と中位～

図表9は、2024年における宮城県と全国の進学率を示しています。これを見ると、宮城県の進学率は47都道府県中28位と全国的には中位に位置していることが分かります。

進学率は、東京都や大阪府などの大都市圏、その隣接県、政令指定都市を擁する地域中核都市のある都道府県で高い傾向があります。また、所得水準の高い都道府県が上位に、低い都道府県が下位に位置する傾向も見られます。

東北各県の進学率は全国的に低い水準にあります。また、宮城県の中心都市である仙台市は、地方の中核都市とされる札幌市(北海道)、広島市(広島県)、福岡市(福岡県)と比較されることが多いです。宮城県の進学率は北海道より高いものの、福岡県や広島県よりは低く、特に広島県との間には10.0ポイントの差があります。



### 5 宮城県内大学への進学状況 ～「学都・仙台」への集積力が目立つ～

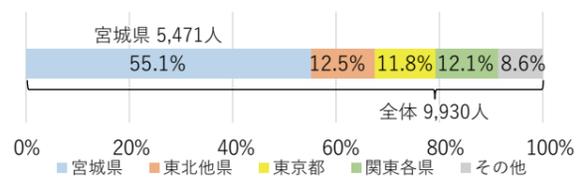
図表10は宮城県、図表11は宮城県以外の東北5県における高校卒業者の地元大学への進学割合を示しています。

宮城県の高校卒業者のうち、5割強が地元である宮城県内の大学に進学しているのに対し、宮城県以外の東北5県では、地元の大学に進学する割合が3割弱にとどまっています。さらに、東北5県の高校卒業者のうち2割弱が宮城県の大学に進学しており、その割合は東京都の大学への進学割合を上回っています。

図表12は宮城県内の大学への進学者に占める県内高校卒業者の割合を示しています。県内高校卒業者の割合は約5割に迫っています。

さらに、宮城県内の大学への進学者のうち宮城県以外の東北各県の高校卒業者が3割強を占めています。また、

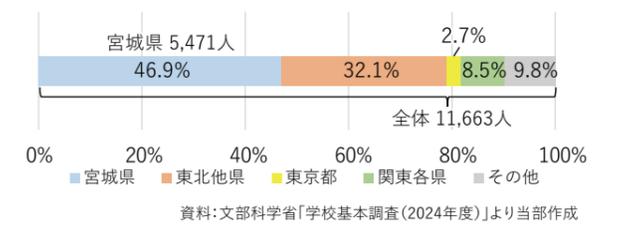
図表10 宮城県における高校卒業者の地元大学への進学割合



図表11 東北5県(宮城県以外)における高校卒業者の地元大学への進学割合



図表12 宮城県内の大学進学者に占める県内高校卒業者の割合



## 6 宮城県の大学の最近の動きや宮城県内大学卒業者の就職動向

これまで、宮城県の大学数や学生数を見てきましたが、最後に宮城県内の大学の最近の動向と卒業後の県内大学卒業者の就職動向を見ていきます。

### (1) 宮城県内の大学における最近の主な動き(トピックス)

時期	大学名	概要
2016年4月	東北医科薬科大学	医学部(医学科)の設置(宮城県内の私立大学としては初)
2017年4月	宮城大学	学群・学類制への移行
2019年4月	尚絅学院大学	学群・学類制への移行
2023年4月	東北学院大学	五橋キャンパスの設置(3学部4学科の新設)
2024年4月	仙台青葉学院大学	21年ぶりの大学設立(看護学部など2学部2学科)
2024年11月	東北大学	国際卓越研究大学として認定(国内初)

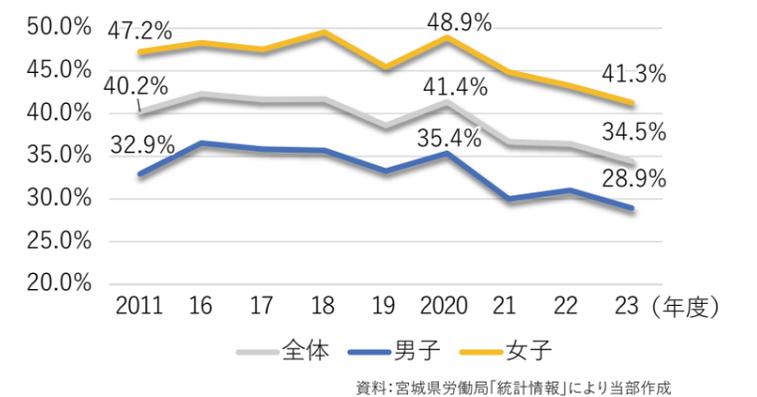
### (2) 宮城県内の大学卒業者の就職動向

#### ～卒業後の県外流出が顕著～

図表13は、宮城県内の大学卒業者における県内企業への就職率を示したものです。近年、「学都・仙台」としての魅力を引き上げる明るい話題がある一方で、2023年度(2024年3月)の宮城県内の大学卒業者のうち、就職により県内に残る割合は全体で3割程度であり、男子は3割を下回っています。

大都市圏での豊富な就職機会から、若手人材の県外流出が一層顕著になっていることがうかがえます。

図表13 宮城県内の大学卒業者の県内企業への就職割合



## 7 おわりに

本稿では、宮城県の大学数や学生数の現状を概観しました。「学都・仙台」としての充実が進む一方で、卒業後の県外流出が課題となっています。

この課題の解決に向け、県内企業の採用活動の強化や自治体による企業誘致の推進、産学官連携による地域産業の活性化、スタートアップ企業の創出による雇用拡大などが進められています。

さらに、宮城県では2024年度から、県内企業と学生をつなぐWEBサイト「みやぎむすび」の開設による情報発信力の強化や、新たなインターンシップ制度「みやぎつめあわせインターン」の導入を図っています。

当社としても、地域シンクタンクとして自社の魅力を高めるとともに、これらの施策の進展に注目し、地域の発展に貢献していきたいと考えています。

(文責 七十七リサーチ&コンサルティング 調査研究部 関口真介)